



読んで本をか 読んで本をか

「親子読み聞かせ教室」を行う読書ボランティア「岡垣くすの木の家」

特集

子どもにとって読書は、言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにします。また、読書で得た知識や考えを深めることで他人を思いやる心を育て、自分自身を見つめ直す良い機会にもなります。

子どもの読書離れが進む今、読書を定着させるためにはどうすればよいかを一緒に考えてみます。

問い合わせ 生涯学習課へ



特集

おうちで本を
読んでいますか

子どもたちには 本を通して思いやりの 心を育ててほしい

Interview

岡垣くすの木の家



代表
首藤久美さん

岡垣くすの木の家とは？
安部 平成3年に設立し、現在は14人のメンバーで子どもたちに絵本の読み聞かせを行っています。本だけでなく手作りのパネルシアターなども利用し、季節ごとに内容も変えて、子どもたちが楽しめるように工夫しています。
首藤 私は知人に誘われて読書ボランティアを始めました。集中して楽しそうに聞いてくれる子どもに出会うことが、私たちの喜びになっています。



代表
安部朋子さん

子どもたちに望むことは？
首藤 本を好きになってもらうことはもちろんですが、それ以上に、子どもたちには本を読むことで人を思いやり、人の気持ちがわかる人になって欲しいと思っています。
安部 読書は心を成長させてくれるので、ぜひ家庭でも読み聞かせをしてあげてください。また、来年に向けて赤ずきんちゃんのブラックシアターを作成しているのです、皆さん楽しみにしてください。

心と頭を育てる 読書のチカラ

読書には、子どもたちの豊かな心を育てるチカラがあります。幼児期では、絵本の中に自分と同じ姿を見つけ出し、共感や安心を覚えられます。また、中高生などは読書を通じて新たな世界を知ること、物事をあらゆる方向から見ることができるようになります。こうした力を子どもたちに身につけさせようと、町内ではさまざまな取り組みが行われています。

読み聞かせなどをする 読書ボランティア

町内には読書ボランティア団体はいくつもあります。本の修繕や布絵本の作成など、団体によって活動内容はさまざまです。その中の取り組みの一つとして「本の読み聞かせ」があります。「岡垣くすの木の家」では、子どもたちが本を好きになるきっかけ作りなどを目的に、岡垣サンリーアイ図書館や中央公民館、各小学校などで行っています。

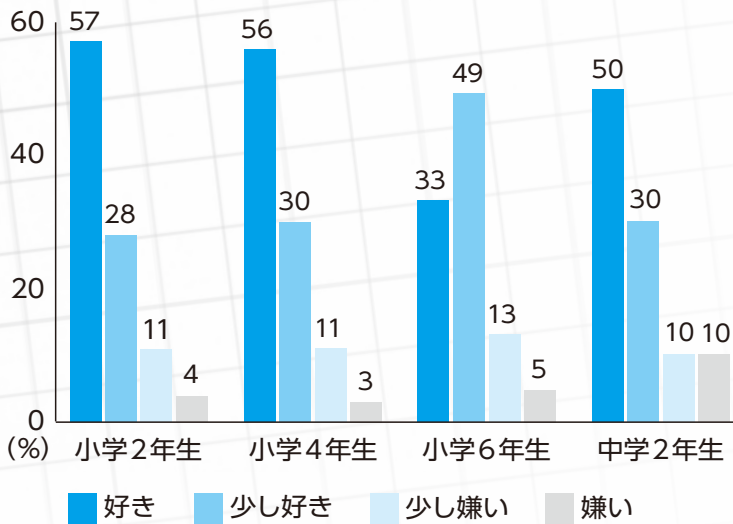
近年では、学校や地域がこれまで以上に、子どもの読書を進める取り組みに力を入れています。その背景には、娯楽などが充実した現代社会で、子どもたちが読書から離れている現状があります。

子どもたちが本を 読まなくなっている

子どもたちの読書活動の現状や傾向を把握するため、平成27年6月に町内の小学2・4・6年生と中学2年生のうち、各学校から1クラスを抽出してアンケート調査を行いました。

Q 読書は好き？

A 読書が好きな子は多いが、年齢が上がるにつれて嫌いな子が増えている。



近年、携帯電話やスマートフォンなどの普及や子どもたちの生活環境の変化により、子どもの活字・読書離れが進んでいると言われています。平成27年5月に全国学校図書館協議会が行った調査によると、学年が上がるにつれて読書量は減少。高校生では、50パーセント以上の人が1カ月に1冊も本を読んでいないという結果が出ています。

全国的に大きな課題となっている子どもの読書離れ。町が昨年行ったアンケートの結果から、町も同じような傾向にあることが分かりました。

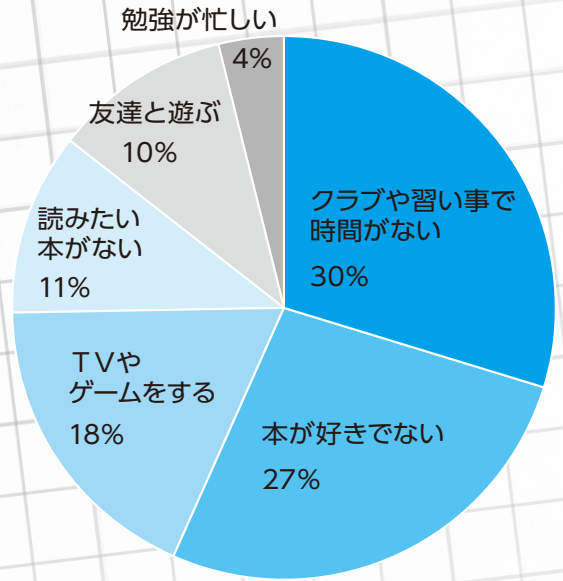
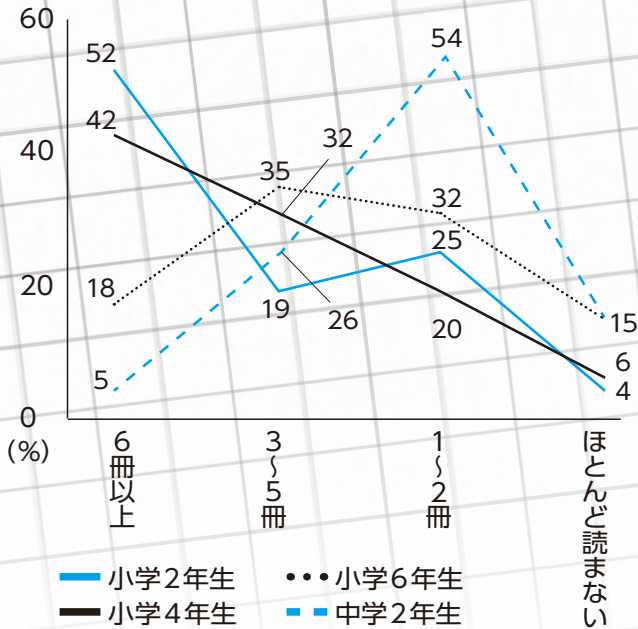
子どもたちが読書から 離れている





Q 1カ月に何冊本を読む?(漫画以外)

A 低学年は6冊以上が多い。
年齢が上がると冊数は減少。



※読書が「少し嫌い」「嫌い」と答えた人の理由

Q 読書が嫌いな理由は?

A ほかのことをして時間がない子が多い。



朝の読書活動で読書習慣が身に

長い休みのあとは 図書館の貸出冊数が減少

町内の小中学校では、子どもたちに集中力や読解力を身につけさせるため、朝の時間を使った読書活動に取り組んでいます。小学校で行うのは「読み聞かせ」。ボランティア団体や地域の人、保護者などが絵本や紙芝居を読み、子どもたちは本の世界を楽しんでいます。中学校では、それぞれが好きな本を10分間集中して読んでいます。

子どもに読書習慣を身につけさせるために

読書習慣は意識して 時間をつくるのが大切

ついた子どもたちは、図書館で読みたい本を借りるようになりま。しかし、夏休みなどの長い休みのあとは貸出冊数が一気に減少。長い休みには定期的な読書の時間がなくなり、自由に過ごす時間が増えるため、読書の習慣が薄れていってしまうのです。

子どもたちに読書習慣を身につけさせるためには、家庭で読書の時間をつくる働きかけが大切です。夏休みなどは読書習慣が薄れる時期もありますが、まとまった時間が確保できるため、読書を定着させるためのよい機会でもあります。

今年の夏休みは、家族みんなで読書に取り組んでみましょう。





おうち 家族の読書空間

小さなときから身につけた読書習慣は、子どもの健やかな成長にもつながります。読書習慣をしっかりと定着させるために、家庭でも積極的に本を読みましょ

きれいな言葉で 話すようになりました

ブックスタートで絵本をもらったことがきっかけで、家読うちどくを始めました。4歳の長男が幼稚園に行く前の5～10分間、絵本を1、2冊読んでいます。子どもたちは、毎日読み聞かせの時間を楽しみにしています。好きな絵本は何度も「読んで」とお願いしてきます。

家読をして良かったことは、言葉を覚えるのが早かったことや絵本で使われているきれいな言葉が身についたことです。おかげで子どもをほめる機会が増え、親子のコミュニケーションもしっかりと取れています。



飯田真理子さん

おうちで本を読もう

「家読」という言葉を耳にしたことはありませんか。これは読書を通じて家族のコミュニケーションを深めることを目的とした取り組みです。

ただ本を読むだけではなく、家族みんなで図書館を利用したり、好きな本について話し合ったりすることで家族の絆も深まります。皆さんの家庭でも、テレビを消して「家読」に取り組んでみませんか。

それぞれの生活に合った 方法で取り組んでみよう

家読に決まったルールはありません。次のような例を参考に、家庭に合った方法を見つけましょう。

- 週一回「読書の日」を決め、みんなで読書をする
- みんなで一冊の本を読み、感想を話す
- 大人が子どもに、子どもが大人に読み聞かせをする
- 料理などの本を読み、一緒に作って食べる など

本が好きな子どもに 育てるために

子どもたちは「本を読みなさい」「読書は大切だ」と言うだけではなかなか本に興味を持ちません。子



特集

おうちで本を
読んでいますか

今日から始める家読

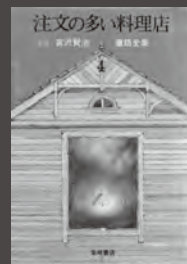
おすすめBOOK

岡垣サンリーアイ図書館では、家族で読書を楽しむためのブックガイドを作成しています。その中からおすすめの本を紹介します。

小学生



へんてこもりにいこうよ
著者：たかどのほうこ
出版：偕成社



注文の多い料理店
著者：宮沢賢治
出版：岩波書店

中学・高校生



空色勾玉
著者：荻原規子
出版：福武書店



いちご同盟
著者：三田誠広
出版：集英社

乳幼児



あおい目のこねこ
著者：マチーセン
出版：福音館書店



かもさんおとおり
著者：マックロスキー
出版：福音館書店

布絵本

図書館には、ボランティアの皆さんが子どもたちのために作った「布絵本」を置いています。布絵本には、取り外しができる小さな人形がついているなど、楽しい仕掛けが盛りだくさん。ぜひ手に取ってみてください。



家読パンフレットを作成しました！



子どもの発達段階に応じて、3種類のパンフレットを作成しました。家読の本を選ぶときの参考にしてください。
設置場所 岡垣サンリーアイ図書館、東部・中央・西部公民館、こども未来館など

もが本を好きになるためには、親子が子どもと一緒に読書に親しむ機会をつくるのが大切です。大人になっても覚えておきたい絵本や本は、誰にでもあると思います。その本が、子どもに読ませたい本であり、家読に向いている本でもあります。まずは、思い出の一冊を子どもたちに伝えることから始めてみてください。